

意見公募手続（パブリックコメント）に対する意見等の概要及び検討結果

- 1 案 件 名 : 鹿屋市再犯防止推進計画（素案）
- 2 意見の募集期間：令和5年3月23日～4月21日（30日間）
- 3 意見提出者 : 1人
- 4 意 見 数 : 1件

〈検討結果区分〉

A：策定案に反映できるもの	件
B：既に盛り込み済みのもの	件
C：今後の参考となるもの	件
D：反映できないもの	件
E：その他感想や質問など	1件
計	1件

番号	意見等の概要	検討結果の区分	意見等に対する検討結果（案）
1	<p>再犯と聞くと何を思い浮かべるだろうか？基本は「自分ではできる。」と思うか、考えるのである。普通の人はずいぶん出来ないと想定する。それは何か限界というのを簡単に知っている人のことを言う。つまり「ムリだ。」という結果を判断する。しかし人間それが解けると思うのであれば解くのである。それが再犯、いままでバレていない。種を明かしている訳ではないので解けてしまわない。それが全てだと思えることはないが、本人の意識は変わることがない。それが正義なのである。永遠にそう思うのである。いつまでも変わることが無いかもしれない。だが本人は一生懸命なのだか、実は自分のことがさっぱり分かっていない。いや知ろうとしたことがないのだ。自分が情けない人間だということはわかっている。ただ強い人間なのだ。これも耐えてきたじゃないか？あれも耐えてきたじゃないか？相馬灯のように振り変る。これからも成功するにもなっているんじゃないか？ある種、自分が超点に達している。それは人間ではないのだが解決方法は1つしかない。自分がきのうの自分を超えていくことなのだ。強い決意をする、そこに無数の光があるように感じられる。普通の人はそのような感じなくていい。毎日生きていたら絶望を感じることもなく、ただ普通に考える。だが、自分は我ながら偉いな！と思う。困難にぶちあたっても（結果的には）クリアしたじゃないか？今度は違う。必殺技があるから大丈夫、安心してくれ！多少の失敗はなんだ！と思う。そして実行する。計算違いが起こる。もっとうまくやりたい。だとうまくやることを命じたのは相手だ！自分ではない！自分が勇者と思うのである。また解決できる。それは一瞬の儚い希望なのだ。そうすることが自分は立っていられるのである。</p>	E	御意見として承り、今後の市政運営の参考とさせていただきます。

無数の光とは解答は1つしかないと教わったから、教えなかったから、社会に出たら無限、無数ある。どれが1つなんてムリだよ！と思う。だが、自分の過去が恐怖になっている。恐怖になってズタボロ、本当は立ち上がれない。自分の勇者がささやき始める。こんどはうまくいく、次もやってみせる。だが、周囲からすると失敗している。失敗するなんて、学校では教わらなかった！常々自分はラッキーなんだ！強いんだ！と考える。無数の弱点がおそいかかる。永遠に呪ばくは解けることもない。ただ、なぐさめが凶悪怪獣になった自分自身が残っただけである。事実とは表裏がないこと、それに気付かず、再犯していく、永遠にわからない。だが、証拠って何？と思う。成長、それは残酷に気付かされる、永遠に解けない。だが光とは、シンプルに考えること。そうすれば凶悪怪獣は消えていくだろう。底があれば光もある。(意見については、原文のまま記載)